

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490500099		
法人名	有限会社 ケアつかさ		
事業所名	グループホームコスモやよい		
所在地	大分県佐伯市弥生大字山梨子828番地		
自己評価作成日	令和4年7月1日	評価結果市町村受理日	令和4年10月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/44/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigvosvoCd=4490500099-00&PrefCd=44&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構
所在地	大分市上田町三丁目3番4-110号 チュリス古府国巻番館 1F
訪問調査日	令和4年7月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

建物は山や田に囲まれており、自然豊かな四季の風景を感じることが出来ます。入居者様は一人ひとりで自分のリズムでゆっくりと過ごされて、傍らで職員が寄り添っています。現在、入居者様の高齢化や重度化等さまざまな課題が生じています。入居者が心身共に健康であるため、お家族が安心を得るために、私達に何が出来るか話し合い考えながら、事業所としてできる限りの事をするべく日々の介護に取り組んでいます。同じ時間を過ごす中で、喜怒哀楽を共にしながら入居者様が穏やかに暮らしていけるような関わりを持ち、また地域住民の一員として、地域活動や人とのふれあいを大切にしていきたいです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは田園に囲まれ、ゆったりと過ごすことが出来る自然環境にあり、コロナ禍ではありますが、友人や家族からの電話・手紙等の連絡を支援し、外出がままならない折ですが、施設内のレクリエーションの時間を増やすなど、重度化防止に取り組まれています。ホーム全体での外出を自粛していますが、病院受診を利用した外出など、利用者がコロナ禍でも気分転換を図れるよう取り組まれています。食事は職員の手づくりで家庭的なバランスを考え、利用者の好みにあわせて調理し提供されています。職員の施設内の研修等も積極的に参加し、個々に応じた支援を提供されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を玄関と事務室に掲示しています。毎朝朝礼で復唱して理念の大切さを理解して実践に努めています。	今までの利用者の生活の延長を継続するなど、地域密着型施設の意義を再確認しながら、事業所に掲げている理念に沿った支援がなされています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方と挨拶を交わしたり話をしたりします。	コロナ禍で、地域との連携が厳しい状況ですが、施設の周りを散歩等で外出されるとき、挨拶・声掛け等を行い、認知症が進行しない対応に取り組みがなされています。	コロナ禍ではありますが、工夫して外出支援に積極的に取り組まれるよう期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族が不安に思う認知症状について話をしたりします。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染症の流行によりほぼできていませんが、事業所の活動報告や入居者様の様子などを郵送にて報告し、ご意見送付を依頼して意見をを出してもらっています。	2か月に1回、7名の委員で取り組まれています。コロナ禍で全員施設にお出で頂くのが難しく、便り・活動報告を活用し、連絡を取られています。自己評価・外部評価結果や利用者の状況を送付し、意見を頂くなど双方向の取り組みがなされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の介護保険係に制度の事を尋ねたりします。コロナ禍のため包括支援センターの職員と郵送にて情報を共有しています。	各法律の改正や利用者の状態の変化・事故発生の際は、市の担当者の指導・意見を聞くなどの対応に取り組みがなされています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待身体拘束対策委員会を毎月行い議事録を周知しています。拘束委員を中心に意識の向上に努めています。	拘束対策委員会を毎月行うなど研修に取り組みられ、比較的軽い人が外出しそうな様子を察知すれば、職員で見守り・連携プレーにて対応がなされ、職員の少ない中、スピーチロック等も積極的に研修がなされています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内での研修で虐待について話し合います。日々の介護の中で不適切なケアにならないように意識をしながら介護に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護が必要なケースには関係者と連携して支援を行います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時にご家族に契約について説明して理解して頂き署名押印をお願いしています。法改正時には文章でお知らせしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しています。意見要望がありましたら、面会時に聞いています。	コロナ禍で、家族との面会が厳しい中、別棟に専用の面会場所を建設・設置して、家族の意見が伝えやすい環境づくりがなされ、来所出来ない家族には、電話・メール等で要望を聞くなど取り組みがなされています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やミーティングで意見を聴き代表者に伝えています。	職員から、利用者の支援方法や個別相談があった時は、すぐに対応され可能なことは対応できるシステムが構築され、職員の気づきやアイデアを運営の中に取り組みがなされています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は事業所に立ち寄り職員の勤務状況を把握しています。職員が向上心を持って業務に励むことができるように職場環境や条件の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1度事業所内で職員研修を行います。コロナ禍で外部での研修は少ないが案内を掲示して希望者には勤務を調整しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で外部の研修に参加する機会が少ないので、リモートでの研修参加を呼びかけ質の向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前や入居時に本人と話をして困り事や不安な事、要望を傾聴して安心できるような関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族と話をして困り事や不安な事、要望を傾聴しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族が必要としている支援を見極めて事業所としてできる限りの対応に努めます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と同じ時間を共有する中で、一緒に生活をしているという意識を持ち声掛けをしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で面会はテラスの窓越しになりますが、一緒に話を聴き近況を伝えていきます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の知人が面会に見えたりすると喜んで話をしています。	重度化に伴い、家族や知人との交流が希薄になっていますが、利用者の要望・思いがあれば、電話や手紙で継続出来る取り組みがなされ、利用者の状態が良い時は、ドライブで馴染みの景色・話題を話す機会に取り組みがなされています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や入居者様同士の人間関係を把握しています。孤立せずに安心して支えあうような場面作りを心がけています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方のご家族に会う機会もあり挨拶をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の希望や意向等を聴き、添えるように努めています。入居者様が話すことが困難な場合には職員間で本人本位に検討するようにしています。	何をしたいのか、食事・トイレ・行動等で言葉にしづらいことを把握し、利用者の意思確認や家族から情報を得ながら、本人本位の支援に取り組みがなされています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人やご家族から話を聴いています。日々話を聴き今までの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境などを把握できるように努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日一人ひとりの過ごし方や心身状態を把握して観察しながら対応しています。毎日心身状態が変わる中、本人を混乱させないように職員が気をつけています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族の意向を聴いて介護計画を作ります。職員間で話し合います。	重度化に伴い利用者の意見・意向が確認しづらい時は、家族・関係者(職員)の意見を聞き、利用者本位の計画が策定され、状態の変化が発生した時は、計画の見直しなど積極的な取り組みがなされています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレットに記録を保管して情報を共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の意向を聴いて事業所としてできる限り柔軟で多様化した支援ができるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握して活用し、入居者様が地域の一員として安全で豊かな暮らしを楽しむ事ができるようにしていきたいです。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族の意向を聴いてかかりつけ医を決めています。受診時には職員が同行して主治医と話をしながら適切な医療が受けられるようにしています。	本人・家族の希望するかかりつけ医となっています。定期的な往診や通院等で、主治医の先生と関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は配置していません。受診時に病院の看護師に気づきや不安なことを相談したり、アドバイスをもらったりしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院や退院時には病院の連携室と情報を交換しています。病状の経過を聴いたりして退院に向けての支援をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族とヒアリングを行い、施設として可能な限りのサポートを行っています。場合によっては訪問看護を利用しています。	入所時、本人・家族に施設として出来る事を説明し、意思確認書を頂いています。状況の変化に応じてその都度、医師・利用者・家族・施設と話し合いを重ね、最適な支援が出来るよう努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様の急変や事故発生時にはその時の状況を判断しすべての職員が的確に対応しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行ったり、業者立会いのもと、火災報知機の操作、消火器の使い方を学んでいます。ハザードマップも用意してあります。	定期的に災害訓練をされています。コロナ禍ということもあり、地域の方の参加は難しいものの、防災設備会社の協力を得ながら訓練されています。	備蓄 備品の更なる充実を希望します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の性格を把握し、その方に合った声かけをしています。	毎年、職員全員で研修をされています。利用者の尊重や、プライバシーに配慮された処遇に取り組まれています。利用者の様子を共有し、個々の気持ちやさりげないケアに努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活する中で入居者様の希望を聴いたり、好みの物を自分で選べるような配慮をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様が自分のペースを崩さずに楽しく過ごせるようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭剃りや爪切り、整容などに気をつけ、外出時には服を着替えます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に1度の誕生日会食を楽しみにしています。季節の食材を取り入れた調理を心がけ、入居者様の状態に合わせた食事を提供しています。	近隣の方の差し入れや畑の収穫野菜は、施設で食事に反映され、出来る事は一緒に手伝って頂き食事を楽しまれています。イベント食も工夫され、食事を楽しんで頂けるよう努めています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量と水分量を記録しています。起床時やおやつ、入浴後など飲む機会を作っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけをして口腔ケアをしています。一人でできない場合は介助をします。義歯もその都度外して洗い、週に一度洗浄液に浸けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録を行いトイレ誘導、排泄介助を行っています。	利用者の、排泄記録は職員全員がすぐに確認でき、支援に繋がっています。個々のパターンを大切に声掛けでさりげなくトイレに誘導されたり、利用者に寄り添った支援に取り組まれています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量、水分摂取量、排泄状況を記録し、状況に応じて飲食物の工夫や下剤の使用を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様の状態に応じて一般浴、シャワー浴清拭を行っています。	その時々気分や体調に合わせて、入浴して頂いています。仲の良い利用者は2人で入浴を楽しんで頂き、重度化が進まれた利用者は、職員2人で介助し、一番気持ちいいのがお風呂という、利用者の気持ちを大切に支援されています。	利用者が、気持ちよく入浴を楽しんで頂ける環境づくりに期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節や気候に合わせて寝具や衣類を入れ替えたり、生活スペースの温度管理をしています。不必要な生活雑音を出さないように努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の薬情をファイルで保管しており、いつでも確認できます。新しい薬や臨時で飲む薬に関しては申し送りに記入したり、口頭で引継ぎ情報を共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみや新聞折りなどを職員と一緒にしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	体調に考慮しながらドライブに出かけたり、外気浴を行っています。	ドライブで外の景色を楽しんで頂いたり、コロナ禍で人が集まる場所を避けながら利用者を楽しんで頂けるよう、工夫された外出支援に取り組まれています。日常的に、天気や体調を考慮しながら施設内の庭を散歩したり、近所を散歩したりしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が難しくなっているためご家族に管理をしていただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	機会があれば電話の取次ぎをします。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が不快なく過ごせるよう、利用者様の声を聴きながらエアコンや加湿器を工夫しながら使っています。	利用者が、安全・安心に過ごせるための感染対策や温湿管理に配慮された共用空間づくりに努めています。家具の配置等にも利用者が不安になったりすることがないように、安全だけでなく安心して過ごせるために個々の気持ちに配慮された、共用空間づくりに努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様の希望や状態に応じてテーブルの椅子やソファーに座りくつろいでいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく過ごせるように、布団を干しシーツ交換、居室の掃除を行っています。	利用者が、居心地よく過ごして頂けるよう、居室づくりをされています。体調に考慮され、必要な事は家族と相談しながら安全・安心に過ごせる居室づくりをされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーでホールや廊下、トイレなどに手すりを設置しています。安全に配慮しながら対応しています。		